那珂遺跡13

— 那珂遺跡群第44次発掘調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第398集

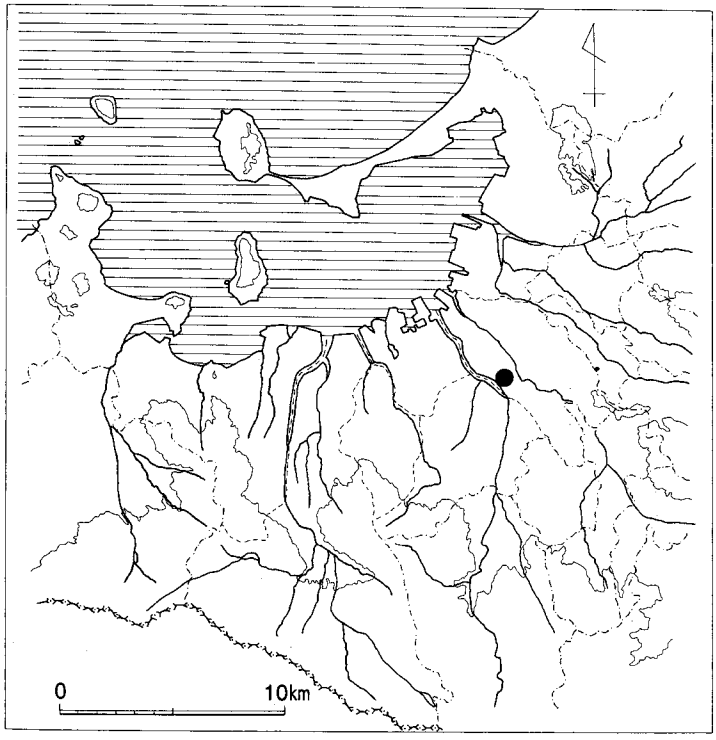
1995

福岡市教育委員会

那珂遺跡13

— 那珂遺跡群第44次発掘調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第398集



遺跡略号　ＮＡＫ-44

遺跡調査番号9328

1995

福岡市教育委員会

ＳＸ03土壙墓遺物出土状況

ＳＸ14土壙墓遺物出土状況

序

福岡市の陸の玄関口である博多駅の南側には古くから大陸文化流入の先進地として栄えた「奴国」の拠点地域とされる遺跡群が広がっています。今回報告する那珂遺跡はその内の代表的な遺跡であり，近年の再開発に伴い現在までに50次を越える発掘調査が行われ、調査の進展とともに新たな知見が得られています。

本書は共同住宅建設に伴って実施された第44次調査を報告するものです。調査の結果、古墳の周溝の一部、中世の豊富な遺物が埋納された土壙墓２基、井戸、戦国時代の濠跡が検出されるなど、多大な成果をあげることができました。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

最後に発掘調査から資料整理にいたるまでご理解とご協力をいただいた地権者の川辺重之氏、施工の上村建設の方々に対し、心から感謝の意を表する次第です。

平成７年３月31日

福岡市教育委員会

教育長　尾花　剛

例　言

1．本書は福岡市博多区那珂一丁目における共同住宅建設に伴い、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成５（1993）年に発掘調査を実施した那珂遺跡群第44次調査の報告である。
2．本書に掲載した遺構の実測は担当の福岡市教育委員会埋蔵文化財課の佐藤一郎の他、星子輝美が、撮影は佐藤があたった。
3．本書に掲載した遺物の実測・撮影は佐藤があたった。
4．製図は遺構を藤村佳公恵、遺物を佐藤が行った。
5．本書の執筆・編集は佐藤が行った。
6．本報告の記録類、出土遺物は、収蔵整理の後、福岡市埋蔵文化財センターで保管されるので、活用されたい。

目　　次

序
Ⅰ　はじめに …… 1
　1　調査にいたる経過 …… 1
　2　調査の組織 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
Ⅲ　発掘調査の概要 …… 4
Ⅳ　遺構と遺物 …… 4
　1　検出遺構 …… 4
　2　出土遺物 …… 8
Ⅴ　小　　結 …… 13

挿 図 目 次

第1図　那珂遺跡群と周辺の遺跡 …… 2
第2図　那珂遺跡群調査地区位置図 …… 3
第3図　那珂遺跡群第44次調査遺構配置図 …… 5
第4図　溝土層・井戸実測図 …… 7
第5図　土壙墓実測図 …… 9
第6図　ピット・ＳＤ01溝・ＳＥ10井戸出土遺物実測図 …… 10
第7図　ＳＤ05・06溝出土遺物実測図 …… 11
第8図　ＳＸ03土壙墓出土遺物実測図 …… 12
第9図　ＳＸ14土壙墓出土遺物実測図 …… 13

図 版 目 次

図版１　１．那珂遺跡群第44次調査区全景（北西から）

２．那珂遺跡群第44次調査区全景（北から）

図版２　１．ＳＸ03土壙墓（北西から）

２．ＳＸ03土壙墓遺物出土状況（西から）

３．ＳＸ03土壙墓（南東から）

４．ＳＸ03土壙墓遺物出土状況（東から）

図版３　１．ＳＥ10井戸（南から）

２．ＳＤ06古墳周溝土層（南西から）

図版４　１．ＳＤ01調査区北壁土層（南から）

２．ＳＤ01土層①（南から）

３．ＳＤ01土層②（南から）

４．ＳＤ01土層③（南から）

５．ＳＤ01土層④（北から）

図版５　ピット・ＳＤ01溝・ＳＥ10井戸出土遺物

図版６　ＳＤ05・06溝出土遺物(1)

図版７　ＳＤ05・06溝出土遺物(2)、ＳＸ14土壙墓出土遺物

図版８　ＳＸ03土壙墓出土遺物

Ⅰ はじめに

1　調査にいたる経過

1992年６月19日、川辺重之氏から本市に対して博多区那珂１丁目122－１他における共同住宅建築に伴う埋蔵文化財課事前審査願書が申請された。申請地は周知の埋蔵文化財課であるところの那珂遺跡群の南東側に位置し、申請地周辺の近接地には既調査区が位置している。福岡市教育委員会埋蔵文化財課が、これを受けて1993年１月26日に試掘調査を実施した。現況は木造家屋および畑で、調査の結果、耕作土直下の地山の鳥栖ローム層上面で遺構が確認された。申請者と埋蔵文化財課は文化財保護に関する協議をもったが、申請面積821㎡を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。川辺重之氏と福岡市との間に発掘調査および資料整理に関する受託契約を締結し、調査は同年８月16日から10月29日まで行われた。

2　調査の組織

調査委託　川辺重之氏
調査主体　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
調査総括　埋蔵文化財課長　折尾　学
　　第２係長　　山崎純男
庶務担当　吉田麻由美（前任）　西田結香
調査担当　試掘調査　荒牧宏行
　　発掘調査　佐藤一郎
発掘調査・資料整理協力者　石屋四一・志堂寺堂・中村米重・藤野保夫・森本良樹・石川洋子・釜瀬真由美・佐々井恵子・澄川アキヨ・多田園美・舎川キチエ・中村フミ子・福田友子・森山キヨ子・相川和子・田中ヤス子・藤野邦子・藤村佳公恵・星子輝美

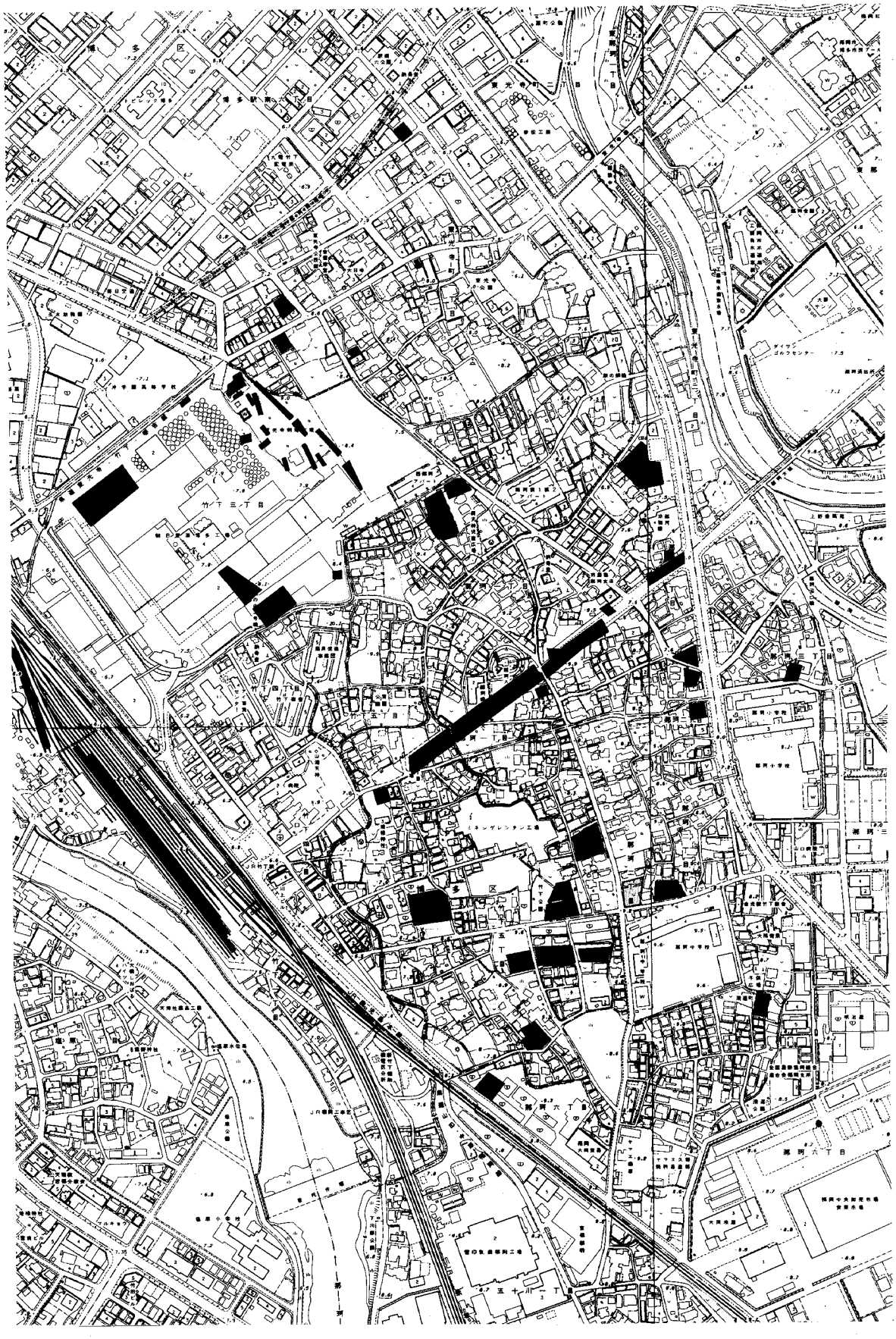
その他、発掘調査に至るまでの諸々の条件整備、調査中の調整等について施主の川辺重之氏、施工の上村建設株式会社をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し無事終了することができました。ここに深く感謝します。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

那珂遺跡群は福岡平野を貫流する御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地、中位段丘上の北側に位置する旧石器時代から中世にかけての複合遺跡である。その範囲は南北1.5km、東西１km、標高は10～15m前後を測る。那珂遺跡群が位置する台地はその南東の春日丘陵から標高を北に下げながら延びる低丘陵上に立地する。同じ連続する台地上に位置する北側の比恵遺跡群、南側の五十川遺跡群とは本来は一連の遺跡である。春日丘陵からベルト状に延びる丘陵群は「奴国」の拠点とされる遺跡群が分布している地域である。弥生時代には当遺跡の他に比恵遺跡群や南東側の台地上の板付遺跡など大規模な集落が営まれている。古墳時代以降も引き続き丘陵上では集落が展開し、那珂川流域には首長

1．博多遺跡群
2．福岡城
3．堅粕遺跡群
4．吉塚本町遺跡群
5．吉塚遺跡群
6．比恵遺跡群
7．那珂遺跡群
8．那珂深ヲサ遺跡、那珂君休遺跡
9．板付遺跡
10．諸岡遺跡
11．雀居遺跡
12．五十川高木遺跡
13．井尻遺跡群
14．曰佐遺跡群
15．須玖唐梨遺跡
16．須玖永田遺跡
17．須玖岡本遺跡
18．須玖四丁目遺跡
19．赤井手遺跡
20．三宅廃寺
21．野多目遺跡
22．野多目拾渡遺跡

第１図　那珂遺跡群と周辺の遺跡



第２図　那珂遺跡群調査地区位置図

墓とされる前方後円墳が築造される。当台地のほぼ中央に福岡平野では最古の前方後円墳である那珂八幡古墳、その北約500mには筑前地域最大級の東光寺剣塚が築造されている。比恵遺跡群内では墳丘および主体が失われ周溝のみが残る円墳が確認されている。板付南台地上においても古墳が築造されている。比恵遺跡群では6世紀後半代の大型倉庫群、建物、柵が検出され、536（宣化）元年に設けられた「那津官家」に関連する遺構と推定されている。那珂遺跡群ではそれに続く時期からその後8世紀前半に至るまでの正方位に主軸をとる溝、大型建物が検出されている。6世紀末から7世紀初頭にかけての古い時期の瓦の出土例もあり、「那津官家」もしくはその後身に関連する官衙的な施設、あるいは郡衙が営まれていたと考えられている。中世には台地上で区画溝をめぐらせた居館とみられる遺構が数次にわたって検出されており、その性格、区画内の遺構の状況がよくわかっていないなど今後検討されるべき課題が多い。

Ⅲ　発掘調査の概要

那珂遺跡群第44次調査区は那珂遺跡群の南側中央部分に位置し、標高9mを測る。第20次調査区の南西、第27次調査区の西側、第26・33次調査区の東側、第41次調査区の北東に位置する。現況は木造家屋および畑であった。

調査はバックホーによる表土剥ぎから始め、排土の大半は施工業者の協力を得て、調査区域外に搬出した。

遺構面は耕作土直下の鳥栖ローム層上面で検出した。調査区域が畑地として利用されていたため、ほぼ平坦に削平を受けており、遺物包含層は残存していない。調査区のほぼ中央と南端で同時期の土壙墓が検出されたが、中央の土壙墓の残存する深さが20cmを測るのに対し南端のそれは55cmを測り比較的良好な残り具合である。また北側へ行くにつれて遺構が疎らになっていくことから、本来は北から南へ緩やかに傾斜していたと推察される。

検出した遺構は井戸1基、土壙13、土壙墓2基、溝7条、柱穴などである。遺構の時期は6世紀後半、12世紀後半から13世紀前半、16世紀末から17世紀初頭の3時期に亘っている。

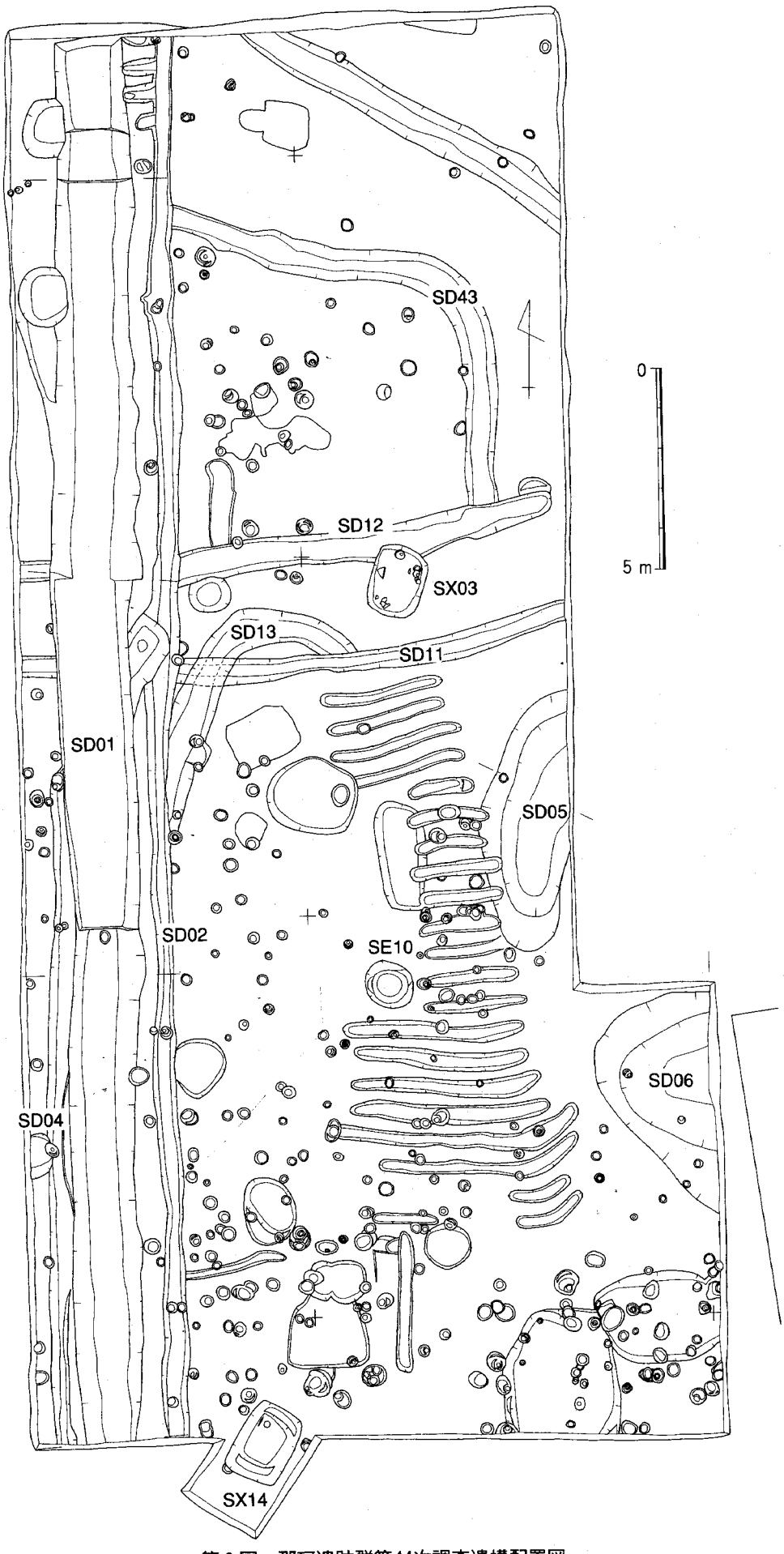
Ⅳ　遺構と遺物

1　検出遺構

井戸ＳＥ10（第4図、図版3）調査区中央のやや南寄りで検出した。平面形は円形を呈し、直径1.1～1.3mを測る。底面は八女粘土層まで掘り下げられている。深さ3.5m、底面の標高5.6mを測る。井戸枠およびその痕跡は検出されなかった。底面で下駄が出土した。

溝

ＳＤ01（第4図、図版4）　調査区の西側で検出した主軸方位をほぼ真北にとる溝状遺構である。幅1.5～2.0m、深さは0.5～0.6mを測る。調査区域内では延長35m検出した。底面は北側から南側へ低くなっている。溝の断面形は逆台形を呈する。南側の壁面は残りが良好で崩落が小さいが、他の部分の壁面は崩落が大きく緩やかである。埋土は灰褐色土を主とし、上層は黄褐色土（地山ローム）粒子を含む。堆積層には砂層はみられず、水が流れた形跡は認められない。空堀として機能した溝状遺構であろう。



第３図　那珂遺跡群第44次調査遺構配置図

土層を観察するため溝と直交する東西方向の畦を10m間隔で設定した。北側から土層断面①②③とし、土層断面④は調査区の南端の壁面にかかる土層断面である。

土層断面①　Ⅰ層は灰褐色土で、黄褐色土粒を含む。Ⅱ層は灰褐色土である。

土層断面②　Ⅰ層は淡灰褐色土で黄褐色土粒を含む。Ⅱ層は灰褐色土、Ⅲ層は淡灰褐色土、Ⅳ層は暗灰褐色土、Ⅴ層は淡灰褐色粘質土、Ⅵ層は黄灰色、Ⅶ層は灰褐色土である。Ⅵ層は空堀の肩部崩落に伴うもので、粘性が強く灰色を帯びるⅤ層より上層は空堀廃絶後の堆積あろう。

土層断面③　Ⅰ層は淡灰褐色土である。Ⅱ層は灰褐色土で、黄褐色土粒を含む。Ⅲ層は灰褐色土で、黄褐色土粒ブロックの混入が多い。Ⅵ層は暗灰褐色土、Ⅶ層は暗黄褐色土、Ⅷ層は黄灰色土である。Ⅶ・Ⅷ層が空堀の肩部崩落に伴い、Ⅵ層より上層は空堀廃絶後の堆積で、さらに肩部が崩れⅢ層が堆積している。

土層断面④　Ⅰ層は灰褐色土である。Ⅱ層は灰褐色土で、黄褐色土粒を含む。Ⅲ層は灰褐色土で、黄褐色土粒ブロックの混入が多い。Ⅵ層は暗黄褐色粘質土で、黄褐色土粒を含む。Ⅶ層は淡灰褐色土、Ⅷ層は灰褐色粘質土、Ⅸ層は暗黄褐色土である。土層断面③に近い堆積状況で、Ⅸ層が空堀の肩部崩落に伴い、Ⅷ層より上層は空堀廃絶後の堆積で、さらに肩部が崩れⅡ～Ⅳ層が堆積している。最も残りが良好で崩落が少ない壁面で、底から60cmまではほぼ堀掘削時の原状をとどめている。北側へ行くにつれて肩部の崩落が大きい。

ＳＤ05・06（第４図、図版３）　ＳＤ05は調査区の東側中央で検出した平面形が弧状を呈する溝である。南側の掘り残された部分をはさんで、南東側に土壙もしくは溝ＳＤ06が掘られている。両遺構の堆積状況、主たる埋土、出土遺物が示す時期が同じであることから、両遺構を一連の遺構と見なした場合、その形状から古墳の周溝の可能性が高い。溝内からは多くの須恵器片、石室の構築材とみられる人頭大のやや偏平な石が出土した。現状の円弧から復元した墳丘の径は約７mを測る。ＳＤ05南側の溝が途切れた部分が墓道とみられ、石室は南西へ開口していたと思われる。ＳＤ06の南北方向とＳＤ05の東西方向の土層の堆積状況をしめす。Ⅰ層は灰褐色土で、遺物を多量に含む。Ⅱ層は黒褐色土で黄褐色土粒を多量に含む。Ⅲ層は黒褐色土、Ⅳ層は直径２～５mmの砂である。Ⅴ層は黄褐色土粒ブロックの混入の多い黒褐色土である。

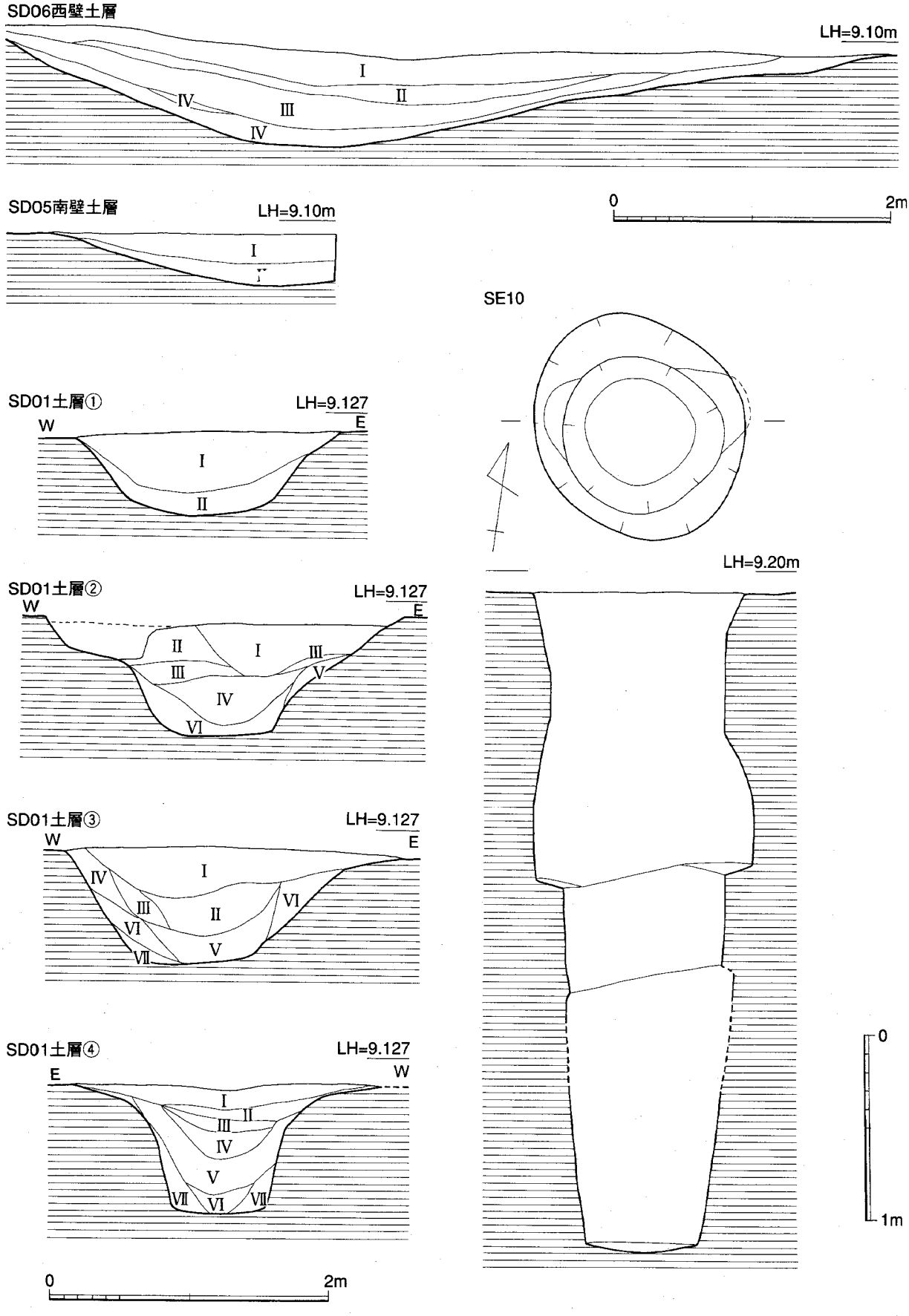
ＳＤ21～41（耕作痕）（第３図、図版１）　ＳＤ05・06の西側で、幅30～45cm、深さ約５cmの溝状遺構が20条平行して検出された。溝状遺構の埋土からは須恵器小片が数片出土したのみで、中世の柱穴、ピット状遺構に切られている。古墳の周溝とみられるＳＤ05・06と重複していたが、切り合いの関係はつかめなかった。畝溝などの耕作痕と見なすことができようか。

ＳＤ02（第３図、図版１）　ＳＤ01の東側に平行して走る幅40～70cm、深さ10cmの小溝である。ＳＤ01と同様に調査区域内では延長35m検出した。

ＳＤ04（第３図、図版１）　ＳＤ01の東側に平行して走る幅50cm、深さ10cmの小溝であるが、調査区南端から17mでＳＤ01と重複する。先後関係はＳＤ01と同様な埋土であったために確認できなかったが、ＳＤ01に近い時期のものであろう。

ＳＤ11・12（第３図、図版１）　調査区のほぼ中央をＳＤ01と直交して走る平行する２条の小溝である。両溝の心々距離は3.0mを測る。北側のＳＤ11が幅80cm、深さ10cm、ＳＤ12は幅60cm、深さ10cmを測る。先後関係はＳＤ01と同様な埋土であったために確認できなかったが、ＳＤ01に近い時期のものであろう。

ＳＤ43（第３図、図版１）　調査区の北側に矩形に走る幅80cm、深さ10cmの小溝である。ＳＤ01・02・12に切られている。



第4図　溝土層・井戸実測図

土壙墓

ＳＸ03（第５図、図版２）　調査区の中央で検出した。平面形は南北に長い隅丸長方形を呈し、全長1.8m、幅1.3m、深さ20cmを測る。墓壙の北東隅で龍泉窯系青磁椀１・皿３、土師器小皿１、刀子１が、北隅に陶器鉢１が底面より約７cm浮いた状態で出土した。墓壙の南西側では土師器鍋が破砕された状態で出土した。

ＳＸ14（第５図、図版２）調査区の南端で検出した。平面形は南北に長い隅丸長方形を呈し、全長2.0m、幅1.4m、深さ55cmを測る。墓壙の南北両端が一段高くテラス状に掘られている。墓壙の北西隅に瓦器椀１、小刀１が底面に接して出土した。

2　出土遺物

ピット状遺構、柱穴出土器（第７図、図版５）

土師器小皿（１・２）　１の器表は磨滅が著しく、調整、底部の切離しを観察することができない。口径 8.8cm、器高1.1cm、底径6.7cmを測る。Pit 61出土。２は体部外面から内底部まで横ナデされ、糸切離しによる底部には板状圧痕はみられない。口径7.5cm、器高1.1cm、底径5.8cmを測る。Pit 54出土。

ＳＤ01出土遺物（第７図、図版５）他に図示できなかったが青花皿の小片が出土している（図版５－ａ）。

唐津系陶器　口縁部はいずれも欠失している。

椀（３）　体部下位で屈曲し、直線的に開く。高台は断面台形に削り出され、露胎である。高台径4.2cmを測る。

皿（４）　体部下位で屈曲し、外反気味に開く。内面の屈曲部より上位に鉄絵の断片がみられ、内底見込みに砂目がつく。高台径4.3cmを測る。

瓦質土器火鉢（５）　外面口縁部下に断面台形の突帯をめぐらし、外面はミガキにより平滑に仕上げられ、内面は刷毛目調整し下部は後横ナデを施す。胎土には砂粒を含み、灰黒色～灰白色を呈する。

ＳＥ10出土遺物（第７図、図版５）

下駄（６）　差歯の下駄で、歯は欠失し台部側面のほとんどを欠損している。全長20cm、台部の高さ2.5cmを測る。

ＳＤ05・06出土土器（第８図、図版６・７）

須恵器

杯蓋（７・８）　いずれも天井部と口縁部の境に段、沈線はなく、丸くつくられている。口縁部は７が直線的に開き、８は内湾している。

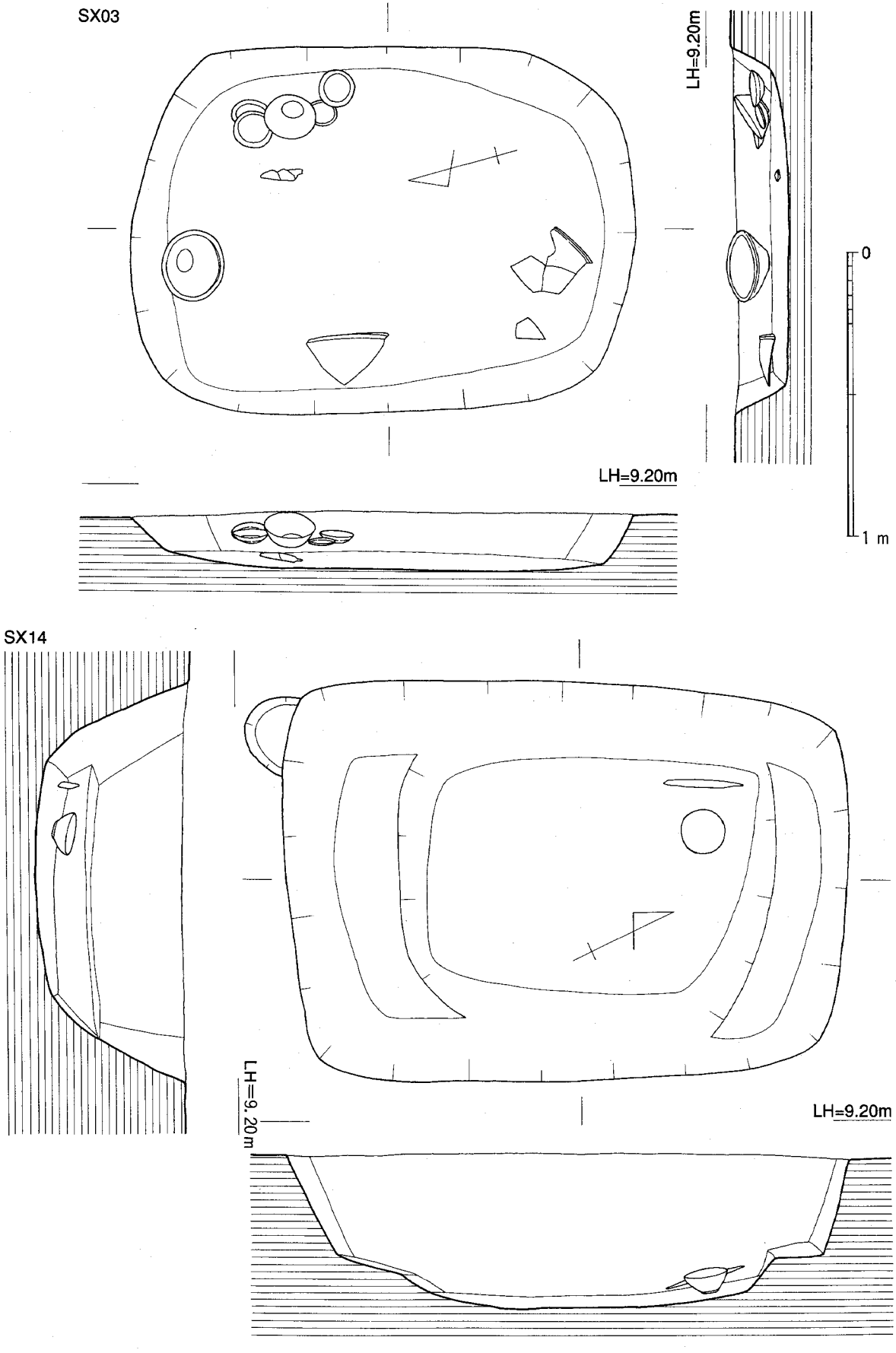
杯身（９～13）　口径10.6～11.1cm、立ち上がりの高さ0.5～0.6cmを測り、基部から短く内傾する。外底部が丸みを残してヘラ削りされ、内底部はナデ、その他の部位は横ナデを施す。９～11の外底部にはヘラ記号が記されている。(図版参照)

短頸壺（14・15）　頸部から口縁部が直に立ち上がる。いずれも内底がナデ、体部外面下半が回転ヘラ削りされる。14の体部外面上半はカキ目、口縁部から体部内面にかけて回転横ナデが施される。肩部には凹線が一条めぐる。15は体部上位の屈曲部に凹線がめぐり、そこから肩部が直線的に頸部へ窄まる。体部外面上半から体部内面にかけて回転横ナデが施される。

甕（16）　口頸部の基部は細く、口縁部は屈曲して直線的に開く。屈曲部下に突帯状の段がつく。頸部は内外面との絞り痕が明瞭に残る。体部は球形を呈し、肩部に凹線が２条めぐる。調整は外底部が回転ヘラ削り、その他の部位は回転横ナデが施される。

長頸壺（17）　外反気味にのびる口頸部は口縁端部下でやや内側へ窄まり、中位に凹線が２条めぐる。肩部は欠失し、外底部にはハの字形に開く高台がつく。体部中位はカキ目、下半には回転ヘラ削り、その他の部位は回転横ナデが施される。

提瓶（18）　口縁部を欠失し、頸部よりやや下がった位置に退化した把手一対がつく。胴部は全面、背面ともに同心円状にカキ目が施される。



第5図　土　壙　墓　実　測　図

平瓶（19）　胴部外面は中位を除いてほぼ全面にカキ目、内面は回転横ナデが施され、底部には指押さえの痕跡が残る。口縁部は内外面とも横ナデが施される。

ＳＸ03出土遺物（第９図、図版８）

土師器

小皿（20）外底部の切離しは糸切り離しにより、板状圧痕がみられる。体部から内底部にかけては磨滅が著しく、調整を明瞭に観察できないが、体部は横ナデ、内底部はナデとみられる。口径9.4cm、器高2.9cm、底径4.1cmを測る。胎土には粗い砂粒を多量に含み、明赤褐色を呈する。

鍋（21）　口縁部は逆Ｌ字の鍔状をなし、上面には植物繊維の圧痕がみられる。口縁部は内面が横方向のヘラナデ、下方および体部との接合部付近は横ナデ、体部の外面が刷毛目、内面はナデが施されている。内外面とも体部下半に煤が付着している。胎土には粗い砂粒を多量に含み、黄褐色を呈する。

青磁

椀（22）　体部内面に双蓮華劃花文を片彫りする。高台は断面形四角で、やや灰色を帯びた緑色の透明釉が畳付より内側を除いて掛けられている。胎土は緻密で、灰色を呈する。口径17.0cm、器高7.2cm、高台径6.2cmを測る。

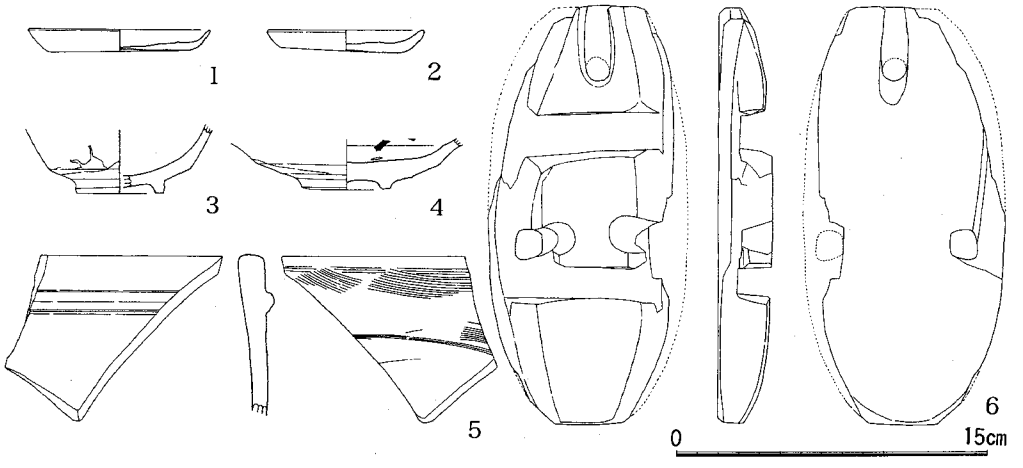
皿（23～25）　平坦な内底見込みに花文が片彫りされているが、釉の発色が不良であるため不明瞭である。やや灰色を帯びた緑色の不透明な釉が掛けられているが、上げ底の外底部の釉は掻き取られている。胎土には黒色微粒子を含み、灰色を呈する。口径13.2～13.4cm、器高2.9cm、底径4.1～4.2cmを測る。

陶器平鉢（26）　体部は直線的にのび、口縁部下で内湾する。口縁部は外側に折れ、Ｔ字状をなす。胎土は灰色を呈する。釉は全面にかけられた後、碁笥底をなす外底の釉が削り取られている。口縁部と体部中位に重ね焼きの目痕がある。釉色は焼成時に外気に直接ふれる外面上半が灰色を帯びた緑色、直接はふれない外面下半と内面は黄褐色を呈する。調整は外面下半が回転ヘラ削り、その他の部位は回転横ナデが施されている。口径21.4cm、器高10.4cm、底径7.5cmを測る。

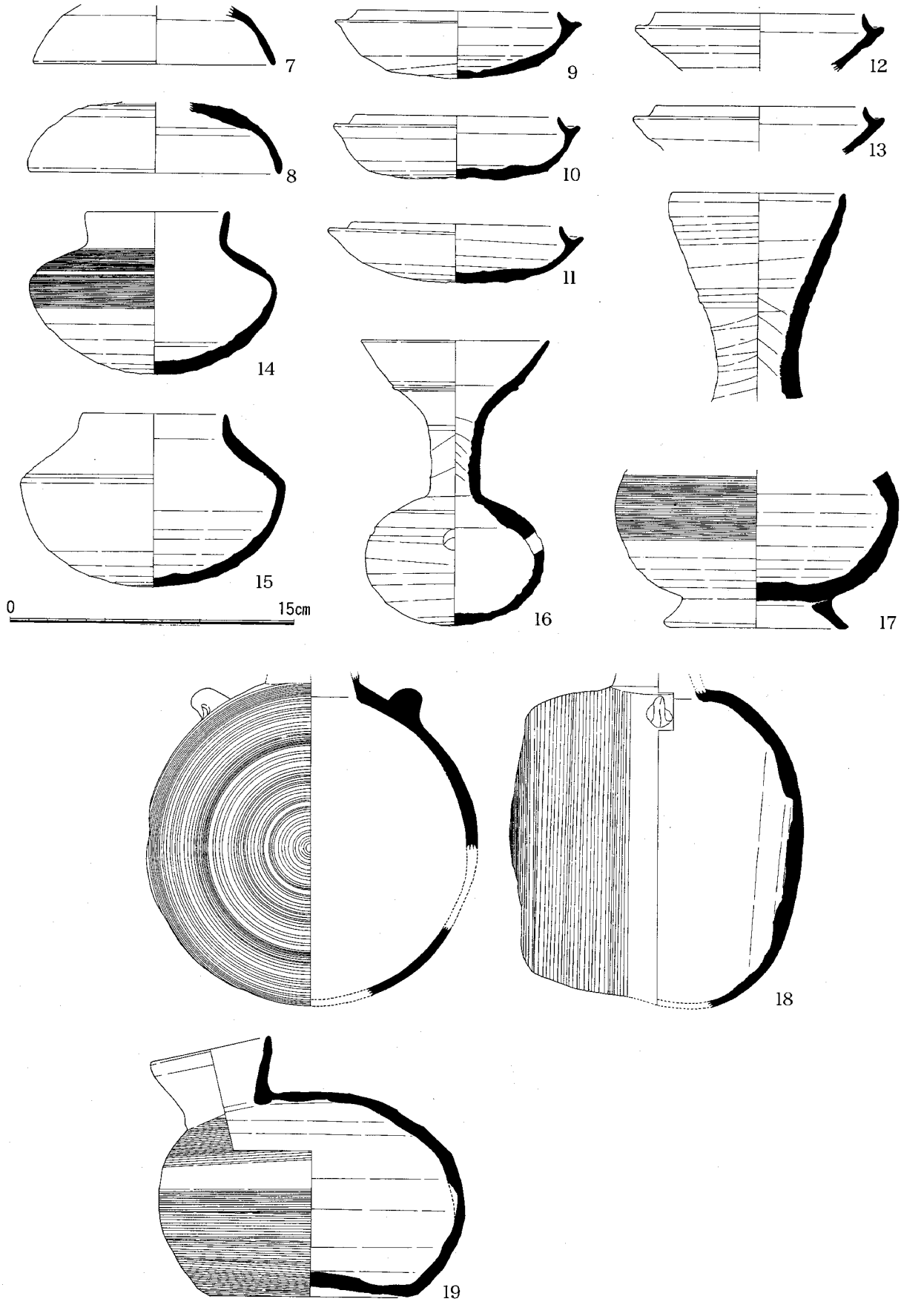
刀子（27）　残存する長さ15.0cm、刃部の長さ13.5cm、中子の長さ1.5cmを測る。

ＳＸ14出土遺物（第10図、図版７）

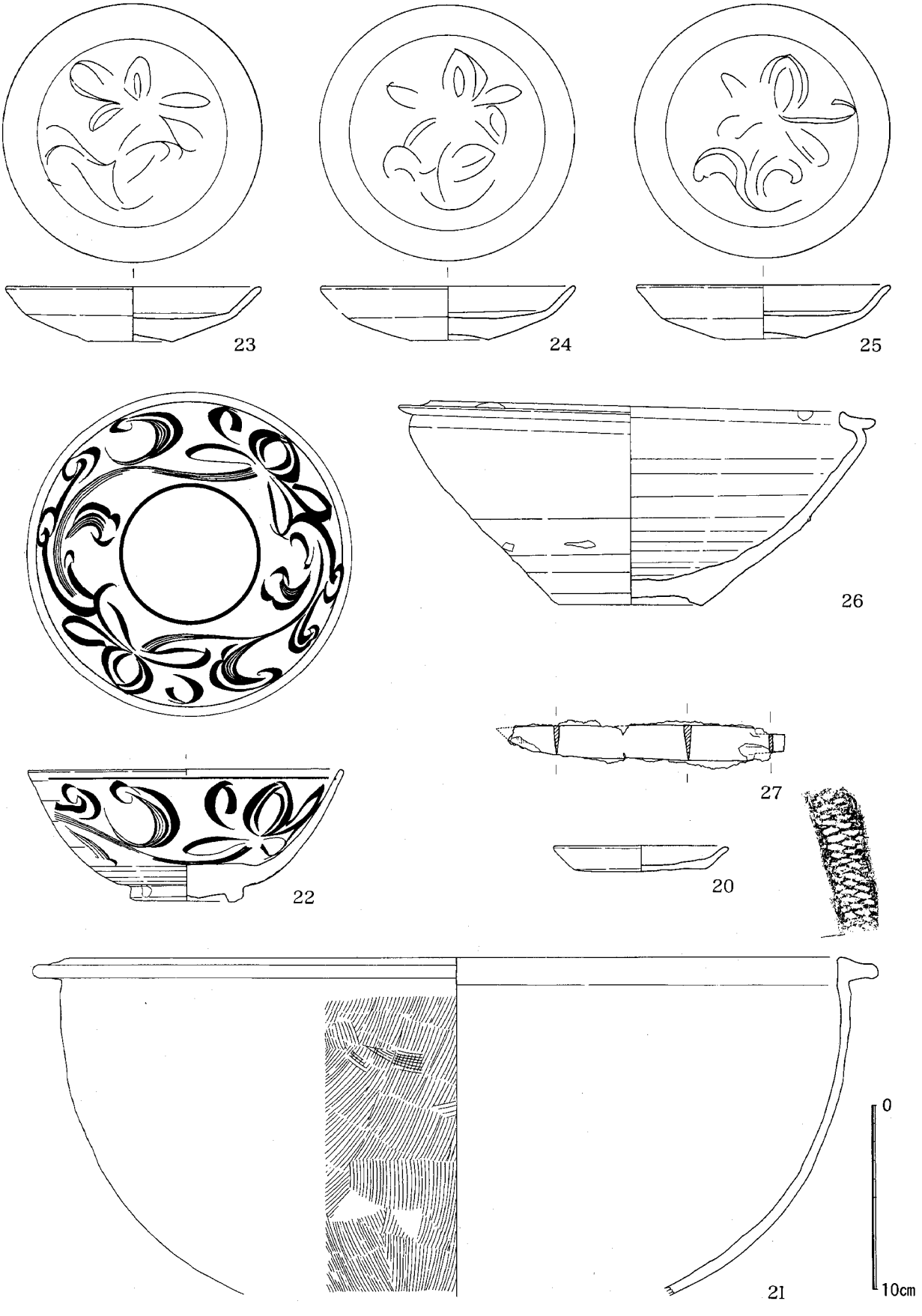
瓦器椀（28）　体部は丸みを持って口縁部まで伸びる。体部中位に屈曲、肥厚はみられず、器肉がやや薄くなっている。内面は平滑に調整されているが、ヘラ磨きの単位は明瞭に観察されない。外面上半は横ナデ、下半には不明瞭ながら指頭圧痕とみられる凹凸、部分的に糸切り痕がみられる。断面三角形の高台が貼り付けられている。胎土には砂粒を含み、淡灰色を呈する。口径16.5cm、器高5.8cm、高台径6.7cmを測る。



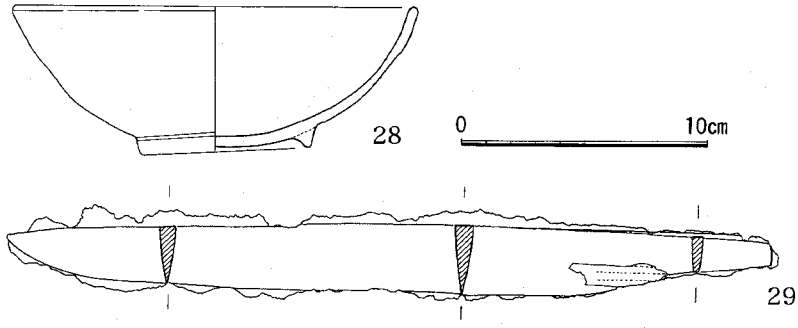
第６図　ピット・ＳＤ01溝・ＳＥ10井戸出土遺物実測図



第７図　ＳＤ05・06溝出土遺物実測図



第8図　ＳＸ03土壙墓出土遺物実測図



第９図　ＳＸ14土壙墓出土遺物実測図

小刀（29）　残存する長さ31.0cm、刃部の長さ22.5cm、中子の長さ8.5cmを測る。木製の鞘が一部残存している。

Ⅴ　小　　結

今回の調査で検出した遺構の時期は６世紀後半、12世紀後半～13世紀前半、16世紀末～17世紀初頭までの３時期である。

６世紀後半の古墳の周溝とみられる溝が検出されたが、那珂遺跡群では第13次調査[註1]で古墳の周溝とみられる溝が検出されている。同じ台地上の比恵遺跡群内では墳丘および主体が失われ周溝のみが残る円墳が確認されている。同じ丘陵上に立地する板付南台地においては板付八幡古墳が確認されている。

12世紀後半～13世紀前半にかけての土壙墓２基が検出された。今回の調査で検出された柱穴のほとんどはこの時期に属すが、後世の遺構や攪乱によって失われたものも多く、建物としてまとまるものは確認できなかった。土壙墓と関連した建物が存在したかもしれない。那珂遺跡群内では第13次・40次調査[註2]でほぼ同時期の木棺墓が検出されている。第13次調査で検出の木棺墓555からは鉄釘の他、土師器小皿７、青磁劃花文椀１、小刀１が出土している。墓壙の掘り方の全長1.7m、幅1.3m、残存する深さ35cm、木棺の幅0.6mを測る。第40次調査で検出の木棺墓ＳＫ17からは鉄釘の他、土師器小皿２と杯１が出土している。墓壙の掘り方の全長1.4m、幅0.8m、残存する深さ22cmを測る。

ＳＸ03土壙墓の墓壙の南西側で土師器鍋が破砕された状態で出土したが、当遺跡の北東約2.5kmに位置する席田遺跡群久保園遺跡では青磁椀２点を副葬した第２号土壙墓の中央部で底面に接し土師器鍋が破砕された状態で出土している。また、一般的な埋納品の組合せである椀皿や刀子に加え墓壙の北隅で陶器平鉢が出土したが、特異な埋納例である。

16世紀末～17世紀初頭にかけての空堀とみられる南北方向に延びる溝状遺構が検出された。那珂遺跡群内では第７[註3]次・８[註4]・19[註5]・20[註6]・28[註7]・40[註8]・47[註9]次調査で15～16世紀代の溝が確認されているが、前述の通り居館にめぐらせられた防御のための区画溝としての性格をもつものであろう。28・47次調査では同時期の地下式土壙が伴って検出されているが、現在までに発掘調査された区域は限られており、区画内の遺構の状況はよくわかっていない。

註

註 1　福岡市教育委員会　1990　『那珂２』　福岡市埋蔵文化財調査報告書第222集

註 2　福岡市教育委員会　1994　『那珂遺跡12－那珂遺跡群第40次調査の報告－』
福岡市埋蔵文化財調査報告書第367集

註 3　福岡市教育委員会　1983　『席田遺跡群久保園遺跡』
福岡市埋蔵文化財調査報告書第91集

註 4　福岡市教育委員会　1987　『公民館建設関係埋蔵文化財調査報告』
福岡市埋蔵文化財調査報告書第162集

註 5　福岡市教育委員会　1987　『那珂遺跡－那珂遺跡群第８次調査の報告－』
福岡市埋蔵文化財調査報告書第153集

註 6　福岡市教育委員会　1993　『那珂７－那珂遺跡第19次調査報告－』
福岡市埋蔵文化財調査報告書第323集

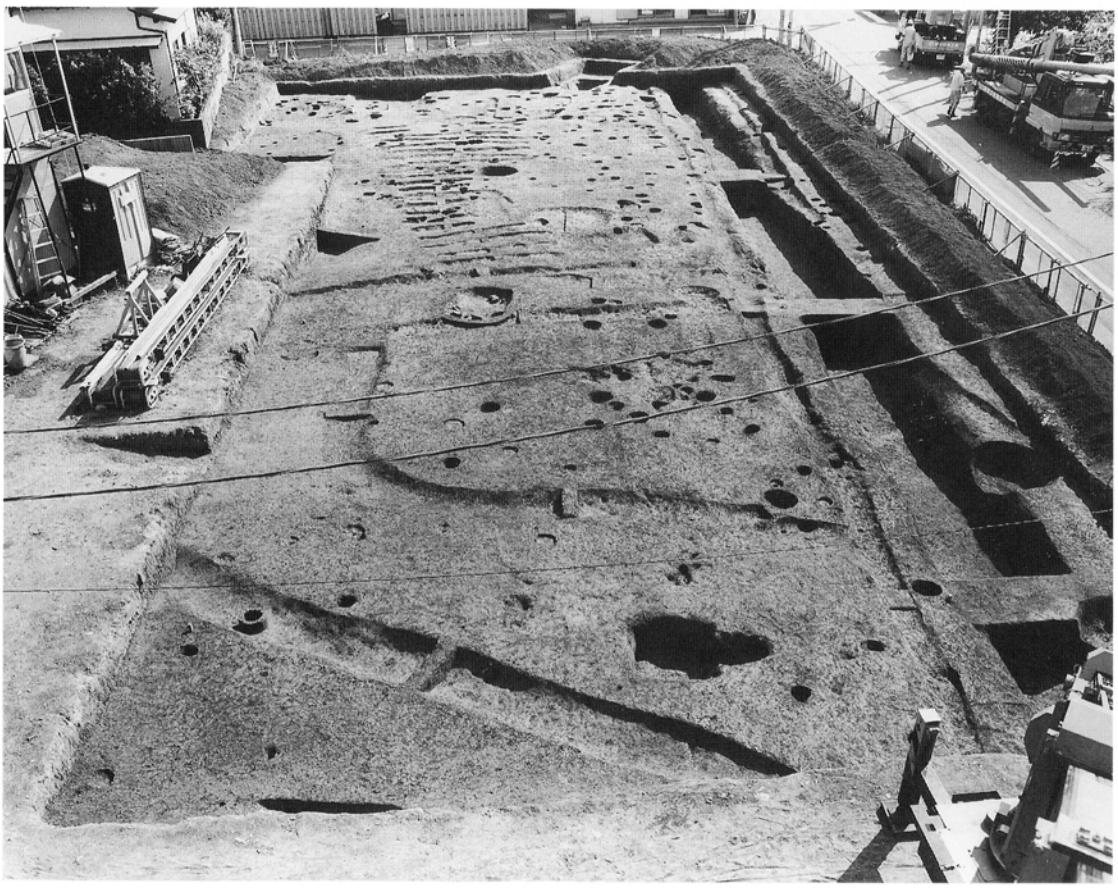
註 7　福岡市教育委員会　1993　『那珂遺跡８－那珂遺跡群第20次調査の報告－』
福岡市埋蔵文化財調査報告書第324集

註 8　福岡市教育委員会　1992　『那珂６－第18・28・30・31次調査報告－』
福岡市埋蔵文化財調査報告書第292集

註 9　平成６年度調査。

図　　版

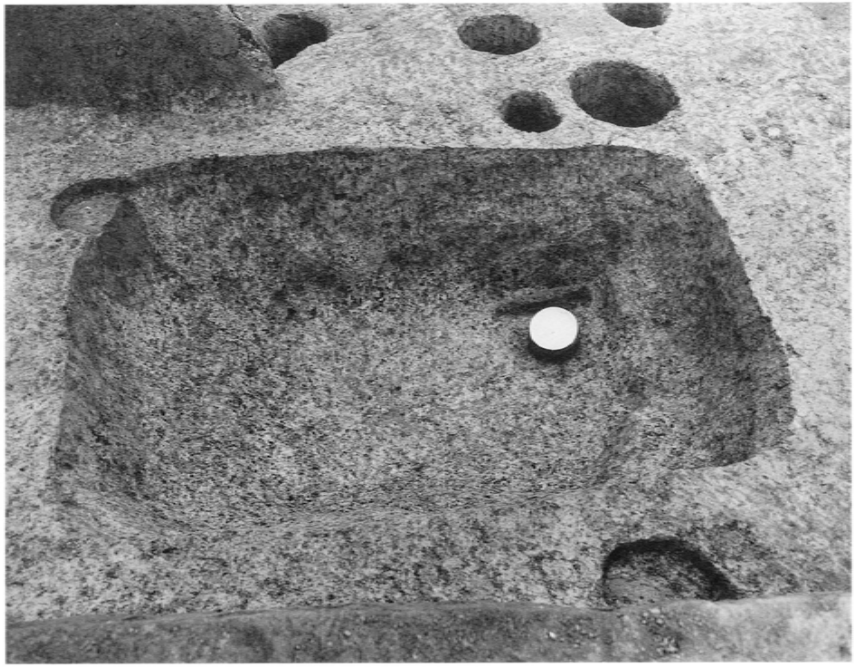
1.　那珂遺跡群第44次調査区全景（北西から）



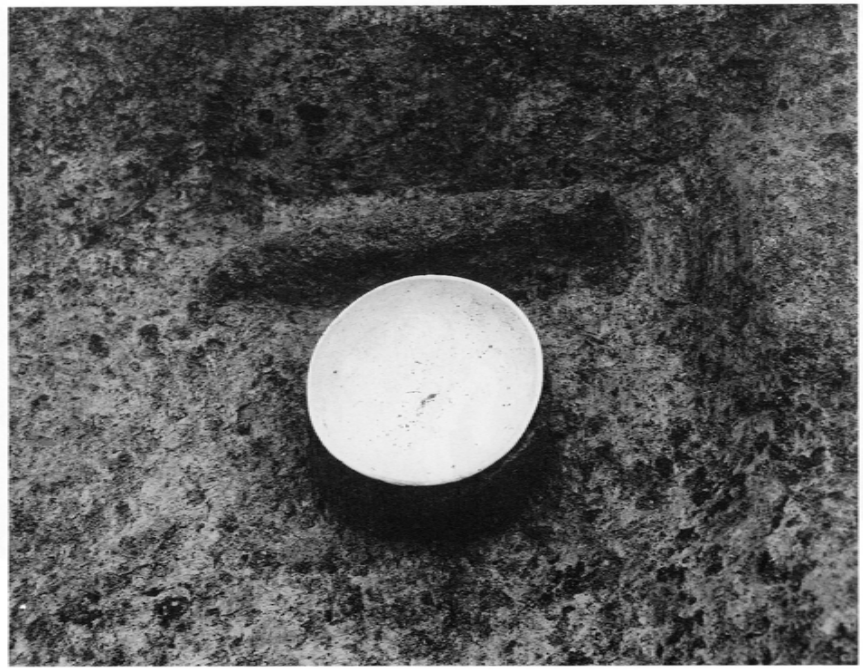
2　那珂遺跡群第44次調査区全景（北から）

1.　ＳＸ03土壙墓（北西から）

2.　ＳＸ03土壙墓遺物出土状況（西から）



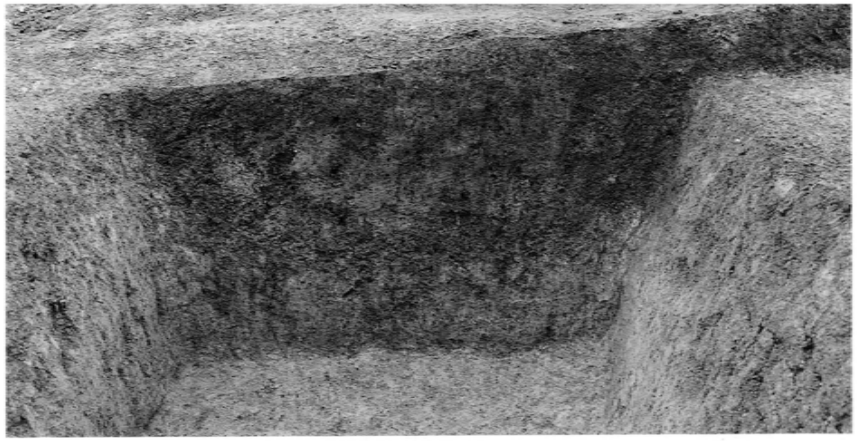
3.　ＳＸ03土壙墓（南東から）



4.　ＳＸ03土壙墓遺物出土状況（東から）

1.　ＳＥ10井戸（南から）

2.　ＳＤ06古墳周溝土層（南西から）

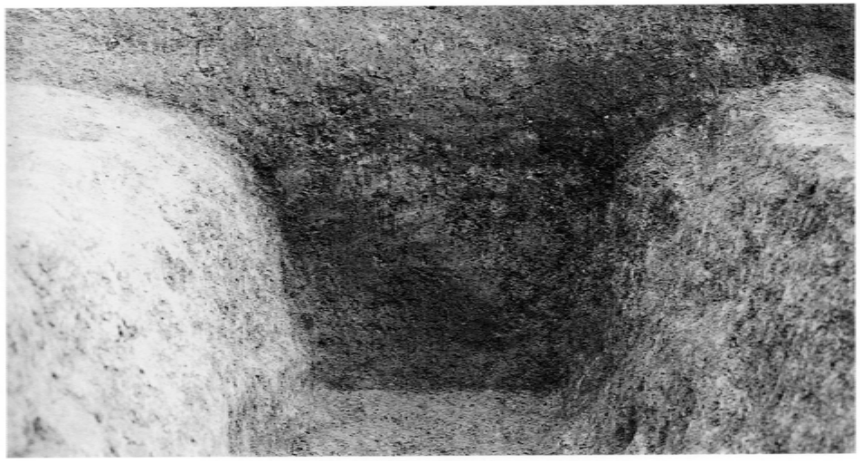


1.　ＳＤ01調査区北壁土層（南から）

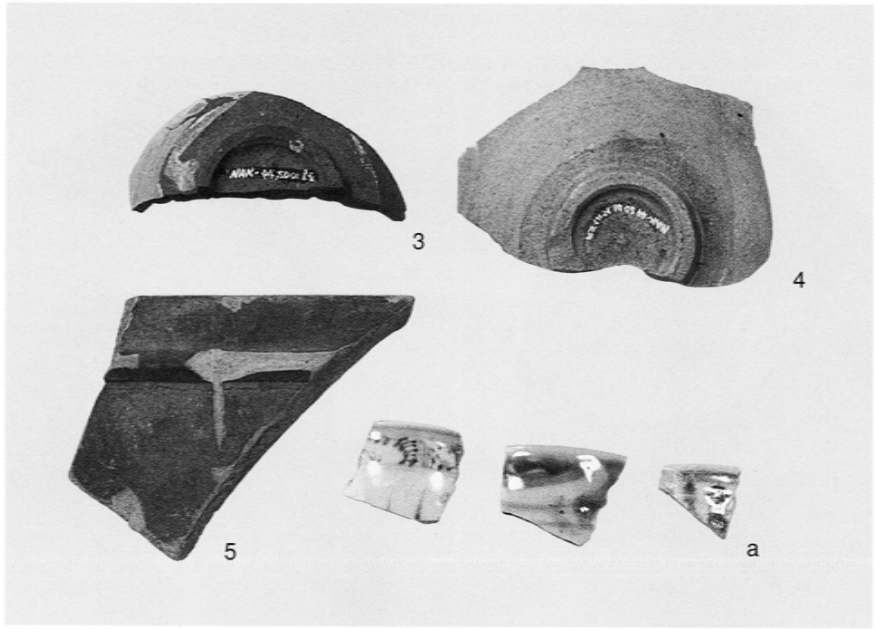
2.　ＳＤ01土層①（南から）

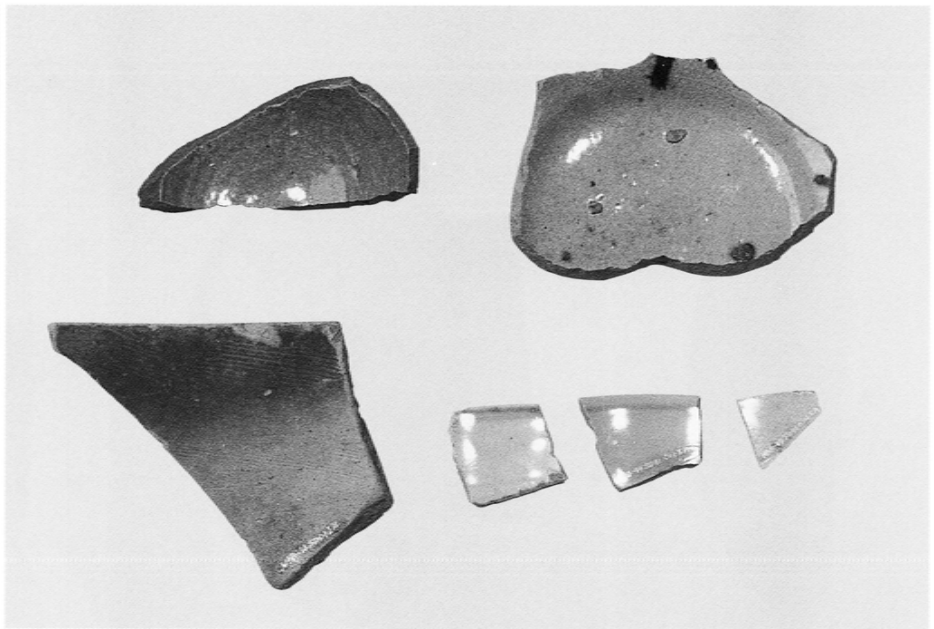
3.　ＳＤ01土層②（南から）

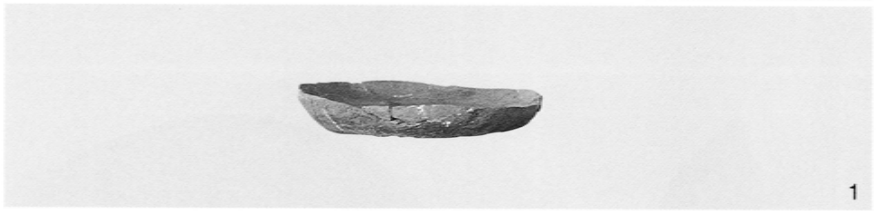
4.　ＳＤ01土層③（南から）

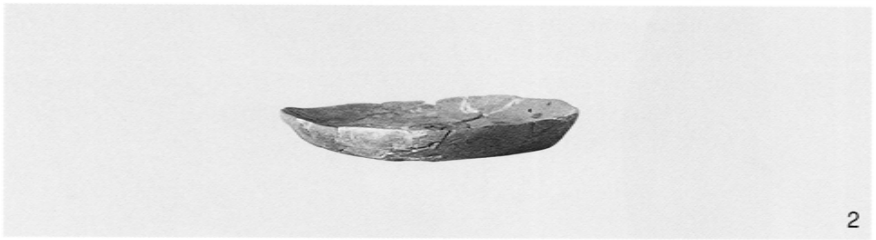


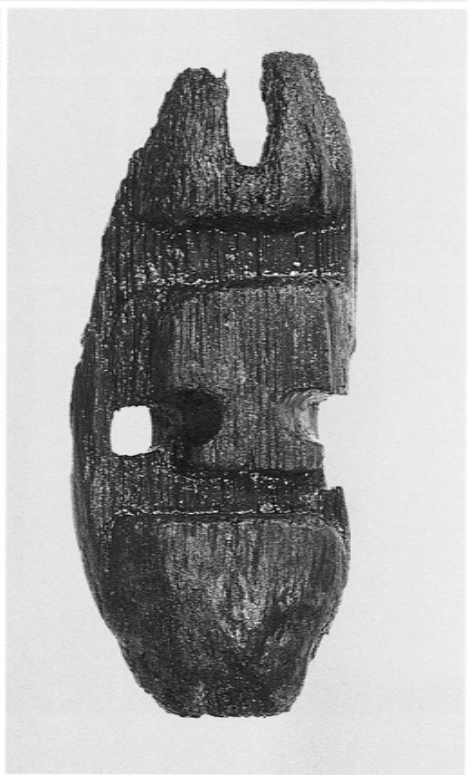
5.　ＳＤ01土層④（北から）







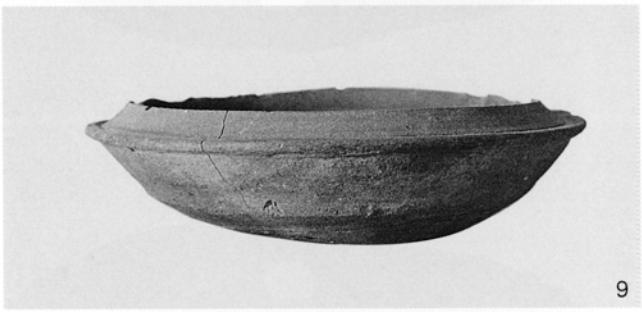




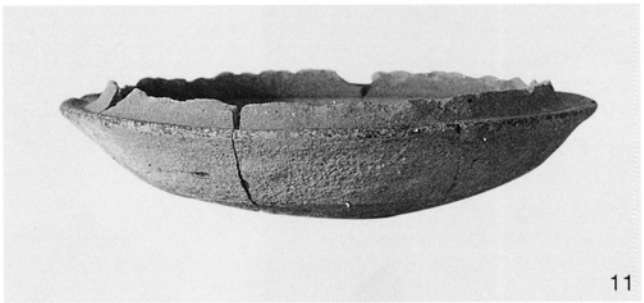
図版５

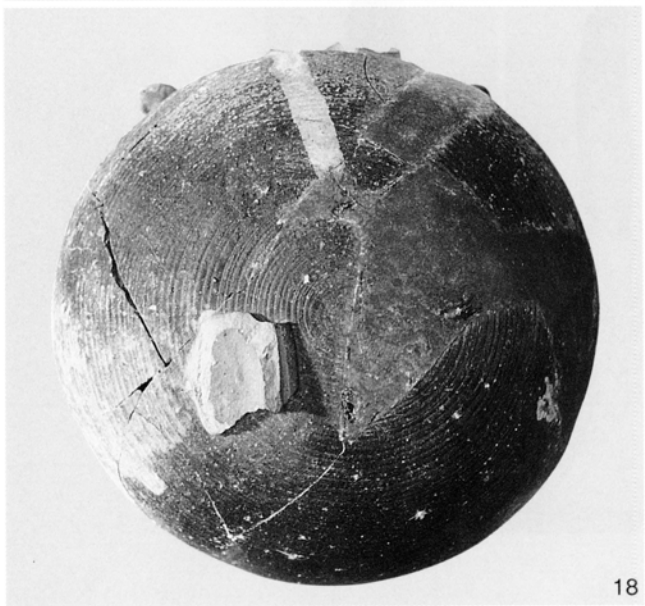
ピット・ＳＤ01溝・ＳＥ10井戸出土遺物

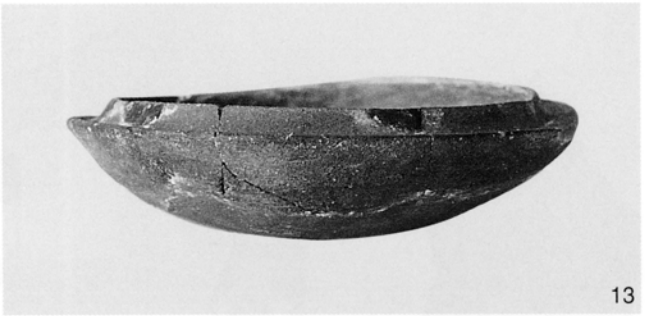
8


9

10


11


18

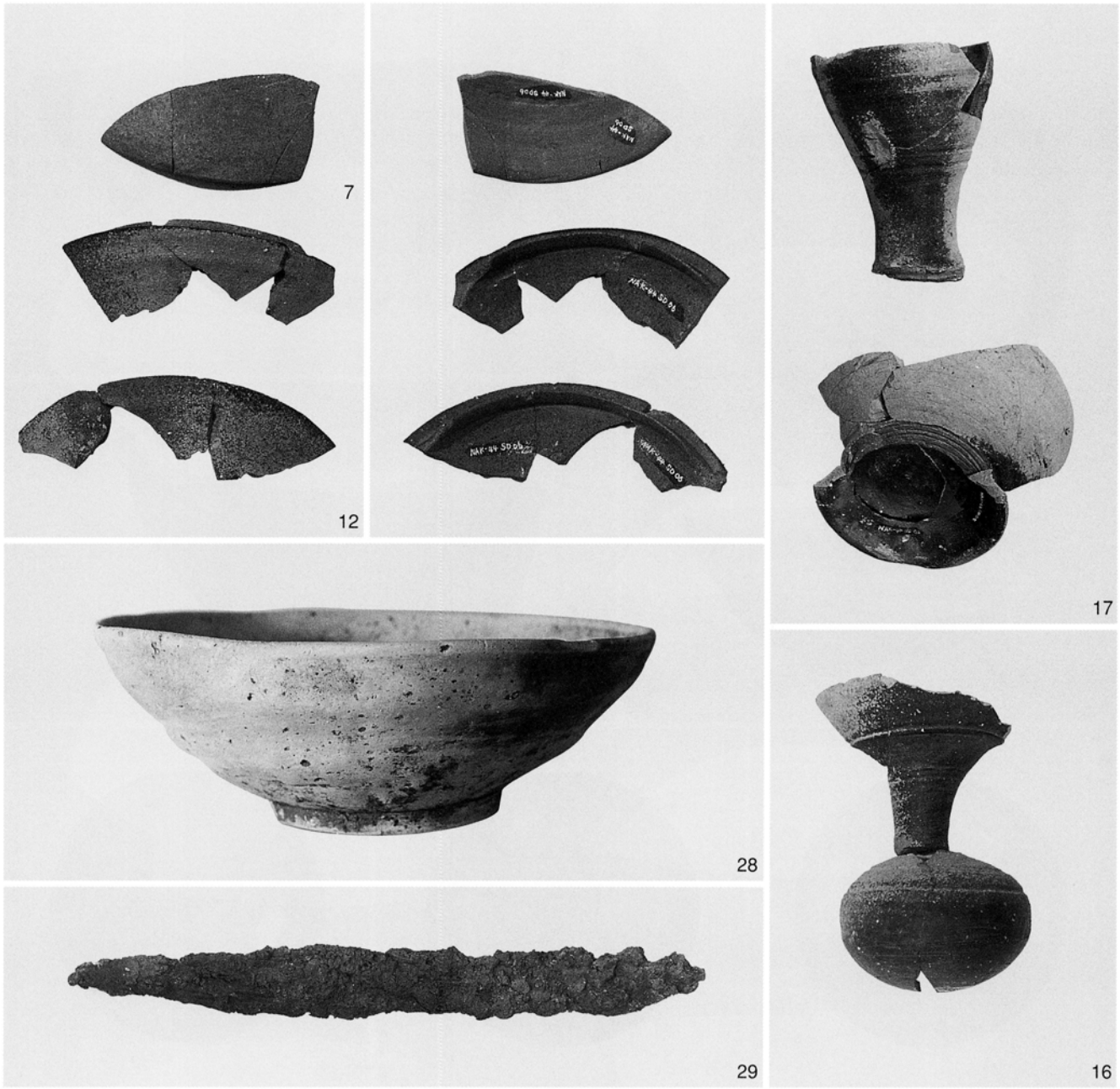

13

14

15

19

S D05・06溝出土遺物（１）



ＳＤ05・06溝出土遺物（２）、ＳＸ14土壙墓出土遺物

図版 8

ＳＸ03土壙墓出土遺物

那珂遺跡13

福岡市埋蔵文化財調査報告書第398集

1995年（平成7年）3月31日

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神一丁目8－1
(092)711－4667

印　刷　株式会社ドミックスコーポレーション
福岡市博多区博多駅南六丁目6－1
(092)431－4061